

連携先世界遺産：音羽山清水寺

京都の文化遺産とその保護 ～清水地域の防災への取り組み～

(本科目が取り組んだ課題・改善事項等の概要)

座学・フィールドワークを通して、文化財の価値の重要性を学び、
守るために、地域の災害危険性について考え、具体的な検討を行う。

■ 受講生

相見 心 (立命館大学・法学部・3年生)、青柳 博喜 (京都教育大学・教育学部・2年生)、朝倉 彩希 (立命館大学・政策科学部・1年生)、廣里 遼 (立命館大学・法学部・4年生)、岩淵 梨紗 (京都女子大学・文学部・3年生)、神谷 知咲 (立命館大学・文学部・3年生)、小林 綾斗 (龍谷大学・社会学部・2年生)、桑田 天 (立命館大学・文学部・4年生)、西村 祐貴也 (立命館大学・文学部・4年生)、奥山 綾香 (京都産業大学・現代社会学部・4年生)、重久 ゆりあ (立命館大学・理工学部・3年生)、篠原 あん (立命館大学・法学部・4年生)、園田 梨乃 (京都産業大学・文化学部・2年生)、杉浦 慧伍 (立命館大学・理工学部・3年生)、武田 優駿 (立命館大学・文学部・4年生)、武田 萌水 (立命館大学・法学部・4年生)、塚口 昂佑 (立命館大学・法学部・3年生)、渡邊 優月 (立命館大学・国際関係学部・4年生)、山門 大輝 (立命館大学・スポーツ健康科学部・4年生)、山下 涼香 (立命館大学・理工学部・2年生)、ZHOU Kefan (立命館大学・理工学部・3年生)

■ 担当教員

大窪 健之 (立命館大学・理工学部・教授)

TA 岡田 雅哉 (立命館大学大学院・理工学研究科・修士1回生)

活動目的・概要

世界文化遺産である清水寺は、年間600万人を超える参拝者があり、日本を代表する寺院の1つです。本プログラムでは、この貴重な文化遺産を守るために取り組まれている活動や設備を座学とフィールドワークを通じて学びます。清水寺では文化財等を維持管理し、火災等の災害から守ることを主な目的として「清水寺警備団」が結成され、現在に至っています。また、地震による大火から守るために、京都市が平成18年度から国宝や重要文化財が集積する東山区清水・弥栄地域において、地域力を最大限に発揮して防災力を強化する「文化財と地域を守る防災水利整備事業」を展開しています。フィールドワークでは、清水寺の文化財の価値について僧侶から説明を受け、実際に見学を行い、境内と周辺地域の災害リスクに関するグループ調査を行います。最後に「災害図上訓練DIG」を行い、文化遺産を核とした地域の災害脆弱性と対策について幅広い観点から考察し、グループごとに発表します。



フィールドワーク



災害図上訓練



成果発表

◆ 主な活動

春学期	インタビュー・プレゼンテーショントレーニング(オンデマンド)	2024/9/8(日)	文化遺産の保存と管理について
2024/9/6(金)	清水寺 ご挨拶+受講生自己紹介	2024/9/8(日)	フィールドワーク2*グループ毎に現地調査 (地域の災害危険性、防災資源、etc)
2024/9/6(金)	文化遺産と歴史都市を災害から守るために (講義ガイダンス+歴研研究所の活動紹介)	2024/9/8(日)	災害図上訓練1(実技・地震火災WS実施)
2024/9/6(金)	清水寺とその災害について1 (災害史を古文書から読み解く)	2024/9/8(日)	災害図上訓練2(実技・その他の災害WS実施)
2024/9/7(土)	清水寺境内の見学および設備の実技体験 (防火水槽、ドレンチャー、放水銃等)	2024/9/9(月)	成果発表準備(班ごとにPPT作成)
2024/9/7(土)	フィールドワーク1*各地において事業の説明 (市民利用消火栓、高台寺防災公園、etc)	2024/9/9(月)	災害図上訓練3(成果発表+総括・講評)
2024/9/7(土)	清水寺とその災害について2 (近年の災害と対策:地震・土砂・火災)	2024/9/9(月)	全体報告会準備(全体で1つのPPT原案作成) 内容について各班の主要なアイデアを集約
2024/9/7(土)	清水寺周辺地域の防災水利整備事業の概説 および(翌日の)災害図上訓練の概要	2024/10/10(木)	成果報告準備①
		2024/11/11(月)	成果報告準備②
		2024/11/29(金)	成果報告準備③
		2024/12/8(日)	成果報告会

活動の成果

本講義の中で、受講生が着目した「清水地域における防災上の課題」

本講義の座学・フィールドワークを通じて、各班から多くの問題点【表1】が挙げられました。その中でも特に「初期消火」と「避難誘導」を全ての班が懸念しており、重大な問題であることが認識されました。そして、こうした問題を念頭に災害図上訓練（DIG）を行った結果、初期消火・円滑な避難の両方を実現させるために、どのような課題点があるのかを各班ごとに考えることができたのではないかと考えています。このように、文化財や地域を守るために、受講生自身が地域の災害危険性について調査・考察を行うことで、文化遺産を守りつつも、次世代へと伝えることの実情と難しさをより学ぶことができたのではないかと思います。

－ 座学・フィールドワークから認識された本地域における防災上の課題 － 【表1】

A班

初期消火：景観と設備の視認性、担当者への入替
避難誘導：従業員の危機感不足、資金問題

B班

避難：避難者の交錯や負傷者の発生
誘導：避難ルートが不明、言葉の問題

C班

初期消火：補助金制度と対象の限定問題
避難誘導：避難経路の危険性、言語の違い

D班

初期消火：防災意識の差、消火栓の区別
避難誘導：急な階段、孤立救助、群衆なだれ



▲フィールドワークの様子

本講義の中で、受講生が考えた「防災上の課題における提案」

本地域における防災上の課題【表1】に対して、本講義のフィールドワーク・災害図上訓練を通して、各班から【表2】の様な多くの提案アイデアが挙げられました。

－ フィールドワーク・災害図上訓練から認識された本地域の防災上の課題における対策 － 【表2】

A班

合同防災訓練の実施、消火栓が可燃物で出来ており見つけにくい→不燃化と光や音で存在を知らせる工夫、寄付金やクラウドファンディングによる防災資金の確保

B班

交差点の封鎖と交通整理、街頭の観光マップへの防災情報の掲出、店舗に対する防災情報掲示の義務付け、夜間の暗さ→太陽光発電のガーデニングライトの設置

C班

文化財保護だけでなく観光防災にも補助金がでる法改正、ホテル従業員による誘導の役割分担、階段の手すりや段差に蛍光テープ

D班

人力車や自警団による支援、多言語を操れる着物レンタル業者への協力依頼、狭窄路における小型バギーでのレスキュー、門前商店に対する観光客対応の義務化、公設消火栓と市民消火栓の文字表記での区別

これらの事から、幅広い視点から現状を把握し、災害対策のあり方についての具体的な検討を行うことができる能力が身に付いたと考えられ、本講義の目的を果たしたものと思われま。

活動を振り返って

- 四日間の講義を通して、観光地としての視点しか持ってこなかった場所を災害というフィルターを通してしてみると、リスクが非常に大きな場所であることに気づきました。これまで旅行の際には、観光地の避難先やホテルの避難経路などの確認をしたことがありませんでしたが、今後は、ホテルの部屋に入ったときはホテルの避難経路や非常口の場所は確認する習慣を癖づけていきたいし、観光地で地図案内を確認する際は避難場所の位置をさっと確認する癖をつけていこうと思います。
- 普段は見ることのできない清水寺の防災設備（放水銃等）を見学することで清水寺の災害対策の意識の高さにとっても感銘を受けました。
- フィールドワークや災害図上訓練を通して、備えられた防災施設・設備がどのように役立つのか、また、役立たない可能性があるという防災の難しさを学ぶことができました。課題を1つ1つ解決していくことで、自ずと地域の防災力は向上していくとは思いますが、決して100%の安全には至らないことを学ぶことができました。
- 災害図上訓練を行い、十分だと思っていた清水寺の火災対策にも課題が多数あると気づくことができました。実際に周辺を見て回るだけでは気づくことができない問題点を発見することができ、図上訓練の意義を学ぶことができました。
- 「防災」に加えて、清水寺の本堂や消火設備、周辺地域を含めた歴史や慣習など、普段は中々知ることのできない様々な情報を得ることができました。特に先生方による境内のご説明を受けながら、実際に見て回るというのは非常に貴重な経験で、清水寺に対する愛着心が高まりました。



▲防火水槽の見学



▲消火ポンプ室

担当教員からのコメント

大窪 健之

この演習は、2024年度で夏季集中講義としては11年目を迎え、世界遺産PBL科目に正式に加えていただいてからは8回目の合同発表会に臨むことになりました。夏季集中講義の最終日には、各班からの成果発表に対して所有者様からコメントいただき、その後全ての提案内容を整理して、12月の合同発表会へ向けた集約の議論を進めてまいりました。このまとめの作業は、正規の集中講義としては期間外の活動となり、各班の代表者らのボランティア活動に支えられています。受講者の皆さんはもとより、その後も主体的に成果発表準備に取り組んでいただいた各班の代表者とTAの頑張りに敬意を表したいと思います。今後も引き続き、大切な文化遺産とその周辺地域の災害安全に向けて受講者の皆さんと柔軟なアイデアを持ち寄り、地域貢献に繋げていければと考えています。

活動資料



▲集合写真



▲境内見学



▲消火設備の実演



▲座学の様子



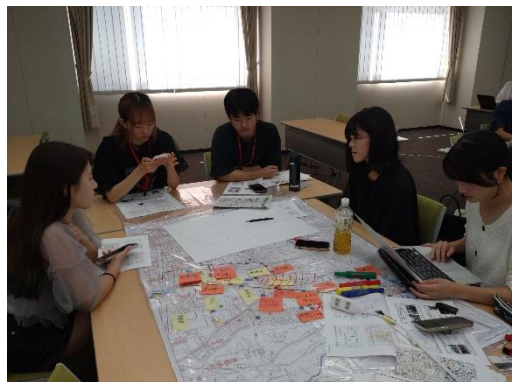
▲清水寺の見学



▲フィールドワーク



▲災害図上訓練の様子



▲発表資料作成の様子